



特定保健用食品をめぐる新しい話題	1
日本食物繊維研究会第2回学術集会プログラム	2
Topics ; 第16回国際栄養科学会議へ参加して	7
事務局だより	8

## 特定保健用食品をめぐる新しい話題

日本食物繊維研究会副会長  
東京慈恵会医科大学健康医学科教授  
池田義雄

日本食物繊維研究会がスタートして2年目を迎え、本研究会の特色の1つである産学協議会の第2回に際し、特定保健用食品について話題提供をさせていただきました。

特定保健用食品とは「食生活において特定の保健の目的で摂取をするものに対し、その摂取により当該保健の目的が期待できる旨の表示をする食品」として定義されています。これは、栄養改善法第12条第1項に基づき厚生大臣の許可を受けなければならないものとして、平成3年9月1日からスタートしたものです。この制度は本質的には、食品そのものに対する認可ではなく、その内容と適用等の表示に対する許可制度だという点が重要です。現在まで特定保健用食品として表示が許可された食品は、78品目に及んでいます。これらのうち38品目はオリゴ糖類で、お腹の調子を整えるという効果が表示されています。次いで多いのが、14品目を数える食物繊維です。これにはお腹の調子を整える、コレステロールの高めの方に適する、血糖値の気になる方に適するなどの表示が許可されています。

さて、特定保健用食品の難しさは製品企画から有効性の評価、そしてこれの審査など、全ての過程で認められているところから、開発企業の努力に見合うリターンがなかなか確保され難いという問題を生じさせています。

一方、高齢化社会の中で中高年における健康障害としての生活習慣病が注目されています。これの予防には、個人レベルにおける食生活の改善とともに適切な運動、休養が欠かせない条件になります。特定保健用食品は、これを上手に利用することによって一定の効果をもって食生活の改善を補完し得るものとして、国民の理解を求めていく必要があります。

今後においては、市場における特定保健用食品の利用度や長期的な有効性について検討する一方、新しい機能を持つ素材の開発と、これらを如何に特定保健用食品に誘導するか、産学共同による努力と成果が期待されることです。又、特定保健用食品に対する国民の認識をたかめる中で、医師など医療スタッフによる生活習慣病の予防と治療に果たす食生活改善の意義をしっかりと認識してもらうことも欠かせないことを強調致します。

---

## 第2回学術集会プログラム

---

### 1. 行事日程

学術集会日	11月14日（金）	大阪市立大学学術情報総合センター10F
	8:45～9:15	幹事会
	9:30～12:00	一般講演発表
	12:00～12:30	評議員会
	13:30～13:50	総会
	14:00～17:30	シンポジウム「食物繊維と消化管環境」
	18:00～20:00	懇親会（大阪市立大学学術総合センター 1Fウイステリア）
	11月15日（土）	都ホテル大阪3F「葛城の間」*
	9:30～12:00	一般講演発表

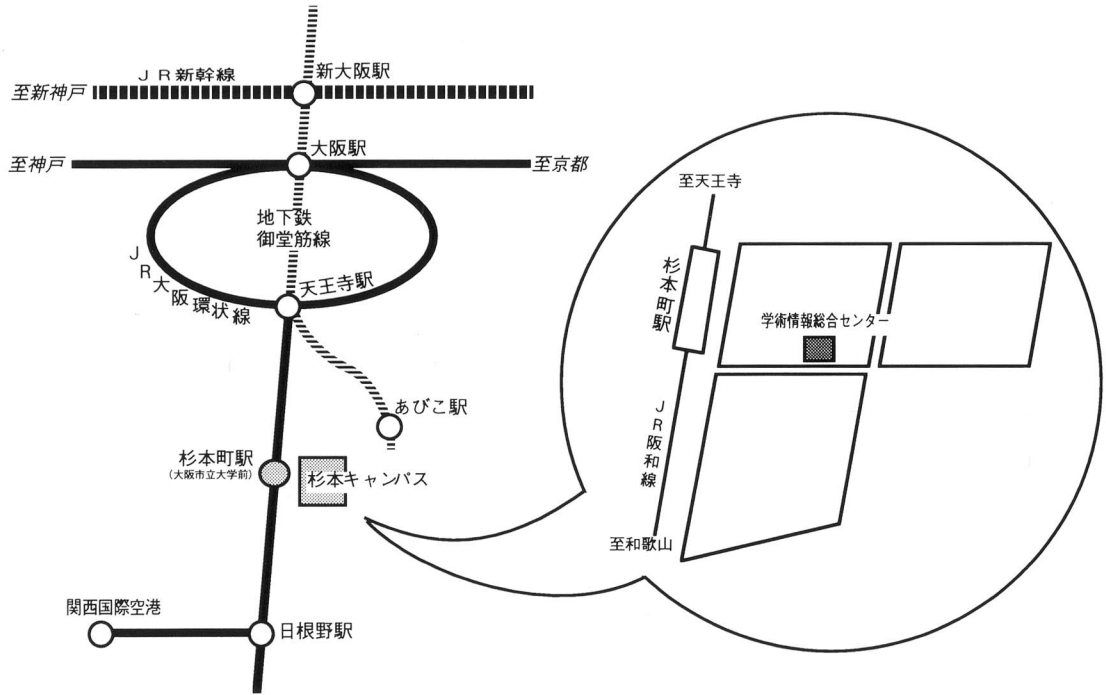
\*学術集会2日目の会場が変更となりましたのでご注意ください。

### 2. 参加者への御案内

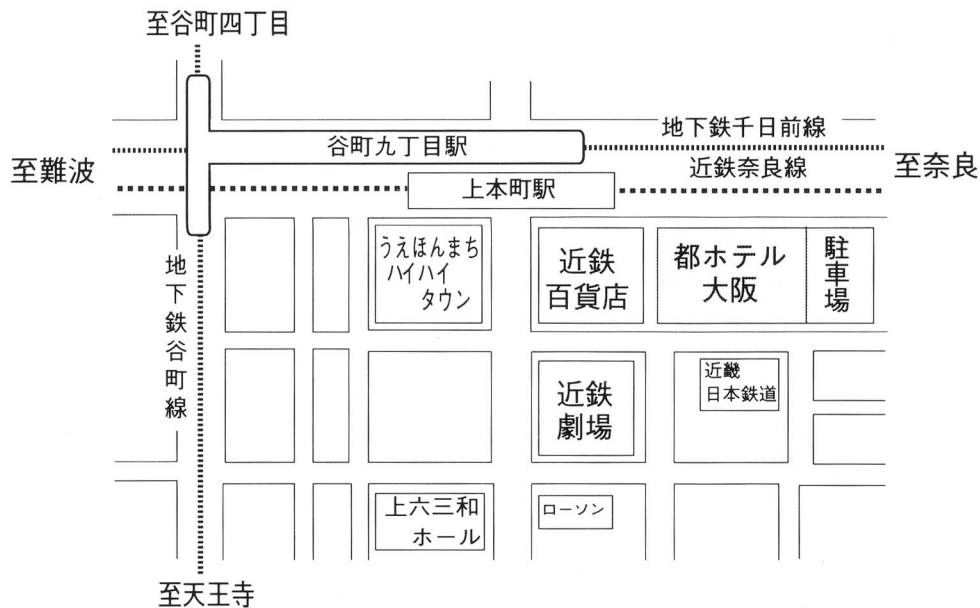
- 1) 総会および学術集会受付  
総会および学術集会受付は、大阪市立大学学術情報総合センター10F会議室前ロビーにて行います。参加費（講演要旨集込み）は、正会員 3,000円、学生会員 1,500円、非会員 4,000円です。
- 2) 呼び出し、クロークなど  
会場での呼び出しは行いません。また、クロークも設置しませんので、荷物等は各自で保管して下さい。
- 3) 昼食  
大学構内の食堂、喫茶室または周辺のレストランをご利用下さい。
- 4) 懇親会  
シンポジウムの終了後、懇親会を1Fレストラン（ウイステリア）で開催します。会費3,500円。
- 5) 連絡先  
日本食物繊維研究会第2回学術集会事務局  
〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138  
大阪市立大学生活科学部栄養生理研究室 TEL&FAX: 06-605-2816

6) 学術集会会場への交通案内

11月14日 (金) 大阪市立大学学術情報総合センター  
 大阪市住吉区杉本3-3-138 TEL: 06-605-3213  
 JR 杉本町 (大阪市立大学前) 駅より南東へ徒歩約10分



11月15日 (土) 都ホテル大阪  
 大阪市天王寺区上本町6-1-55 TEL:06-773-1111  
 近鉄「上本町」下車徒歩5分  
 地下鉄谷町線、千日前線「谷町九丁目」下車  
 東へ徒歩約10分



## 3. 一般講演プログラム

11月14日（金）

時刻	演題番号	演 題
座長：池上 幸江（国立健康・栄養研究所）		
9：30	1	低分子アルギン酸の排便・便性に及ぼす影響 ○中村禎子、岡崎光子、奥恒行* （女子栄養短大、東大・医*）
9：45	2	便秘者の食生活の特徴（第一報） －便秘者及び非便秘者の食物繊維摂取量と食事内容の比較－ ○大村節子 <sup>1,2</sup> 、門司和彦 <sup>2</sup> 、竹本泰一郎 <sup>2</sup> （長崎女子短大 <sup>1</sup> 、長崎大・医・公衆衛 <sup>2</sup> ）
10：00	3	青年期女性の排便習慣に対する小麦ふすまシリアル <sup>1</sup> の改善効果 ○森本聡尚、伊藤輝子*、中嶋洋子*、田中美和子**、 永山スミ子**（日清製粉、聖徳大*、東京家政学院大**）
10：15	4	肥満を伴った糖尿病における食物繊維の効果 －長期入院例における検討－ ○森豊、管希代子、高野光枝、武田君代、岡田和久、池田義雄* （国療東宇都宮、慈恵医大・健康医学科*）
10：30		セッションの総合討論
10：45		
座長：桐山 修八（大妻女子大・家政）		
11：00	5	大麦、カラス麦および各種素材のアミログラフと ビスコグラフによる物性測定 ○中村尚夫、小野あゆみ、藤本珠美、古澤みな子 （甲子園大・栄養）
11：15	6	メカブ粘性物質の物性とその摂取がラットの消化管組織に与える影響 ○山中なつみ、小川宣子、片山（須川）洋子* （岐阜女子大、大阪市大*）
11：30	7	ラットにおける化学修飾澱粉補足による糞量増加効果 白石留美子、○海老原清 （愛媛大・農）
11：45		セッションの総合討論
12：00		休憩（12：00～13：20）

11月15日 (土)

時刻	演題番号	演 題
座長：早川 享志 (岐阜大・農)		
9:30	8	穀物細胞壁断片の抗酸化性と腸内細菌のフェルラ酸エステラーゼ活性 ○太田剛雄 <sup>1,2</sup> 、西澤千恵子 <sup>2</sup> 、江頭祐嘉合 <sup>1</sup> 、真田宏夫 <sup>1,2</sup> (千葉大生物生産 <sup>1</sup> 、千葉大(院)自然科学研究科 <sup>2</sup> )
9:45	9	カードランのラット血清、肝臓脂質濃度と盲腸内短鎖脂肪酸濃度 に及ぼす影響 ○清水純、和田政裕、滝田聖親、印南敏 (東農大・農・栄養)
10:00	10	ラットの消化管免疫に及ぼす難消化性糖質の影響 ○工藤慶太、清水純、和田政裕、滝田聖親、菅家祐輔、印南敏 (東農大・農・栄養)
10:15		セッションの総合討論
10:30		休憩
座長：奥 恒行 (東大・医)		
10:40	11	キシログルカン分解物の発現する生物活性について 三崎旭、関谷敬治、○大和谷和彦 (大阪市大、大日本製薬)
10:55	12	玄米と白米中の澱粉の消化性の違いが、大腸内環境に及ぼす影響 ：ブタを用いたtest study ○早川享志、A R Bird*、R J Illman*、D L Topping* (岐阜大・農、CSIRO(Australia)人間栄養部門)
11:10	13	レジスタントプロテインによるラットの盲腸内発酵の制御 ○福永竜子、桐山修八 (大妻女子大・家政)
11:25		セッションおよび全体の総合討論
12:00		

## 4. シンポジウム「食物繊維と消化管環境」

11月14日（金） 14時～17時30分

座長：中村尚夫（甲子園大）

---

14:00	中村尚夫	（甲子園大）	生体側からみた食物繊維
14:10	佐々木雅也	（滋賀医大）	小腸とペクチン
14:35	海老原清	（愛媛大学）	食物繊維と胆汁酸代謝
15:00	岩見公和	（京都府大）	レジスタントプロテインの生理機能； 胆汁酸と大腸癌抑制

休憩

座長：市川富夫（武庫川女子大）

---

15:35	矢島高二	（明治乳業）	} 大腸内細菌の代謝と代謝産物の作用
	坂田 隆	（石巻専修大）	
16:25	鉄口宗弘	（大阪市大）	種々の食物繊維と消化管粘膜表層の形態変化
16:50			
		総合討論	
17:30			

---

## 5. 講演者、討論者、座長へのお願い

## 1) 講演

講演時間：発表12分、討論3分

発表はスライドプロジェクター（35mmスライド）1台を用いて行います。

OHPは用意いたしません。

スライドは講演開始30分前までにスライド受付にてホルダーにセットし、試写してご確認下さい。

## 2) 討論

討論希望者は、座長の指示に従い、所属と氏名を述べてからご発言下さい。本研究会においては、学会などではできないような問題についてもフランクに討論していただきたいと考えております。このため、1人の座長の受け持ち講演終了後、そのセッションに関する総合討論を行います。活発な討論をお願い致します。

## 3) 座長へのお願い

運営の都合上、当該時間の30分前までに会場へ到着し、受付に出席している旨をお知らせください。特に、各セッションについて総合討論の時間をとってありますので活発な討論が行われるようご配慮ください。発表演題についての質問が少ないときは、その周辺の問題に関連した話題などを引きだして下さい。ただし、指定時間は厳守して下さい。

---

## Topics

### 第16回国際栄養科学会議へ参加して

第16回国際栄養科学会議 (16th International Congress of Nutrition)は、本年7月27日から8月1日までカナダ国モントリオール市で開催され、わが国からもたくさんの研究者が参加した。国際栄養科学会議は4年毎に開催されることになっており、次回2001年はオーストリア国ウーン市に決定している。わが国は、1989年以来IUNS Councilメンバーを外れていたが、今回、小林修平先生 (国立健康・栄養研究所所長) がメンバーに加わったので、栄養学分野における国際的な動きや情報をもっと速やかに届くものと期待している。今回の参加者は3,000名以上で、そのうち日本人は350名前後であったと聞いている。カナダの7、8月は観光のベストシーズンであることも手伝って、夫人同伴の参加者も少なくなかったようである。

開催国の会長はDr.Chandra (小児科医) で、会場である国際会議場は市内の便利などところに位置し、セントローレンス川に近く、広々としたスペースを確保していた。今回の会議で目新しいと思ったのは、ポスター形式のワークショップを持ったことであろう。このやり方は1つのテーマについて幾つかの共通した演題を集め、予めポスター発表した後にスライド発表で3~4分間のまとめを行い、討論をする形式を取った。しかし、スライド発表が規定時間よりも長くなるので討論時間が圧縮される結果になった。一般演題はすべてポスター発表であったが、広々とした会場でゆっくり討論ができたのでかえってよかったのではないかと思われる。一般演題では、栄養教育を始め実践栄養学に関する論文が目につき、実験科学に関する論文は全体的に少なかったように思われた。

私が発表したポスターワークショップのセクションは『オリゴ糖と消化管機能』 (座長: Cummings) で発表は16題であった。うち、食物繊維・短鎖脂肪酸関連7題、オリゴ糖・糖アルコール関連6題、レジスタントスターチ関連2題、その他1題で、人を対象にした論文は約半分であった。あまり目新しい内容のものは見られなかったが、少糖 (oligosaccharides)ではなく、短鎖糖質 (short-chain carbohydrates) という用語を英国人が使っていたのが気になった。また、食物繊維研究者であるEnglyst, H.N.の息子が食品中のRapid available glucose含量とglycemic responseを比較して、glycemic indexの低い食品と高い食品を区別していたのも目に付いた。

奥 恒行 (東大・医)

## 事務局だより

日本食物繊維研究会誌第1巻第1号を皆さまのお手許に届けました。御覧いただいた感想はいかがでしょうか。経費をかけないために、手作りに近い作業を致しました。不備な点は多々あると思いますが、会員の御意見をうかがいながら、良い雑誌にしていきたいと考えています。第2号は来年の1月発行の予定で、現在作業を進めていますので、投稿論文、その他の原稿をお待ちしております。すでに、イギリスからDr. A. Leedsの原稿もいただいております。また、投稿原稿のお問い合わせもいただいております。2号も予定どおり発行できるものと考えております。

第2回学術集会、公開講演会の準備も片山集会長、池田副会長の御尽力で、着々と進んでおります。多数の会員の参加は勿論、回りの方々もお誘い下さるよう御願いたします。

また、第2回学術集会に合わせて、総会等の御案内も同封しておりますので、出欠の御返事を御願いたします。総会では今後の研究会の活動について活発な御意見を御願致します。

### 会員状況：平成9年10月1日現在

正会員 184名 学生会員 7名 賛助会員 33社

団体会員 5団体 名誉会員 6名

#### 【賛助会員】

参松工業株式会社	太陽化学株式会社	株式会社荻野商店
全国精麦工業協同組合連合会	大日本製薬株式会社	日本食品化工株式会社
佐合食品工業株式会社	カルター・フードサイエンス株式会社	大塚製薬株式会社
雪印乳業株式会社	伊那食品工業株式会社	財団法人日本こんにゃく協会
株式会社はくばく	日本ケロッグ株式会社	株式会社林原生物化学研究所
社団法人菓子総合技術センター	三州製菓株式会社	松谷化学工業株式会社
サントリー株式会社	オリヒロ株式会社	株式会社カイゲン
富士バイオ株式会社	日清製粉株式会社	山ノ内製薬株式会社
日本甜菜製糖株式会社	武田薬品工業株式会社	日本バイオコン株式会社
旭化成工業株式会社	塩水港精糖株式会社	第一出版株式会社
大塚製薬株式会社製品部	清水化学株式会社	日清食品株式会社

(順不同)

日本食物繊維研究会 JDF News Letter No.4

発行日 : 1997年10月15日

発行人 : 日本食物繊維研究会会長 印南 敏

編集人 : 奥 恒行、青江誠一郎

事務局 : 日本食物繊維研究会事務局

〒162 東京都新宿区戸山1-23-1

国立健康・栄養研究所 食品科学部内

TEL: 03-3203-5601, FAX: 03-3203-7584

印刷所 : 株式会社 交友社

〒136 東京都江東区大島8-38-5

